

# 令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

## 北九州市立 則松 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和7年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

### 1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

### 2. 調査内容

#### (1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

#### (2) 質問調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問調査

### 3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

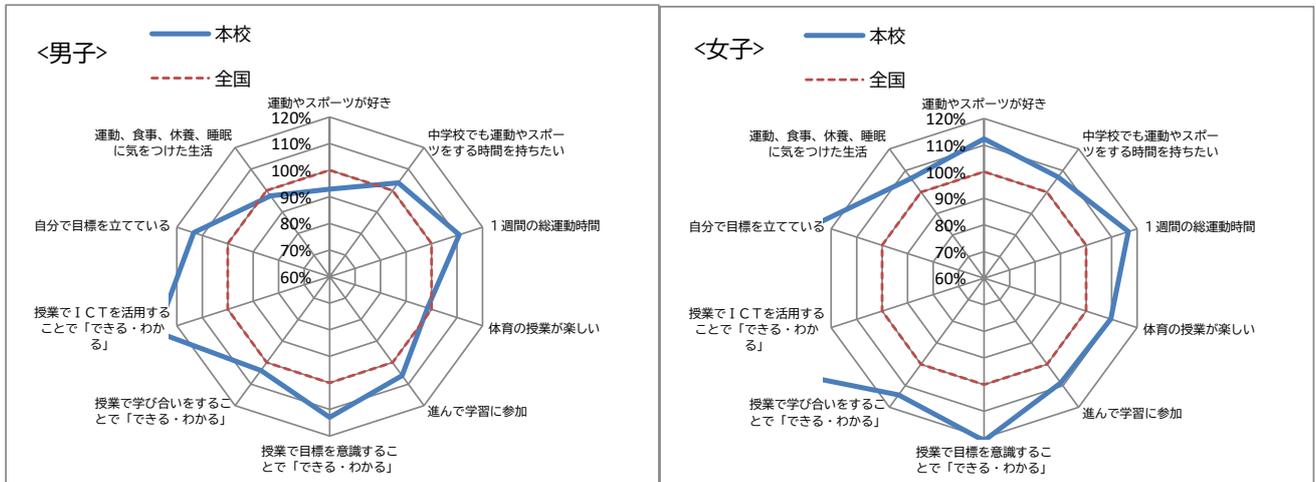
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
本市	16.16	19.89	34.46	41.16	50.80	9.47	152.45	22.02	54.09
本校全国平均以上の種目	16.8	22.6	34.8	43.7	63.9	9.48	162.4	23.5	57.6

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97
本市	15.73	18.70	38.63	39.23	39.35	9.75	144.11	13.51	54.98
本校全国平均以上の種目	15.5	20.4	41.1	41.7	50.2	9.77	149.4	13.4	58

### 4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査レーダーチャート



#### 質問調査の結果分析

・体育の学習に進んで参加している児童が男女とも多い。新しい単元に入る際に、学習全体の目標や学習の流れを児童と一緒に確認することで、児童は見通しをもつことができている。また、自分や友達の動きをタブレットで確認したり、ふりかえりでICT機器の活用をしたりすることが習慣化されつつある。  
 ・「運動やスポーツが好き」については、スポーツをするだけでなく、見る、支えるなどの視点を子どもたちに伝えたり声かけしたりすることで、生涯にわたるスポーツとの関わり方を考えさせたい。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

全学年において、学習のめあて、まとめ、ふりかえりの意識をより強く持たせていく。また、ICT機器をどの場面に使用することで学習効果を高めることができるかについても学校全体で検証していった。運動量の確保や意識づけについても、学級だけではなく児童会活動等で働きかけることで改善できるようにした。

#### ② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

後期の中休みに「ランランタイム(5分間持久走)」の取組を児童会活動と関連付けて、自主的な活動として全学年で実施した。児童が自分の目標を立てて取り組み、自分の周回数が記録できるカードを使用したことで、どの学年の児童も意欲を持ち続けて参加することができた。  
 個人の取組だけではなく、集団の取組として、学級で大縄に取り組みさせることで、記録を伸ばしていくことへの達成感を感じさせることができた。